

厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）
（総括）研究報告書

法医学領域における多職種連携とキャリアパス推進に関する研究

研究分担者 笹尾 亜子 熊本大学 大学院生命科学研究部 講師

研究要旨

法医学会に従事する教職員ならびに大学院生を対象として現状と課題を把握するためのアンケート調査を実施した。アンケートは法医学会のメーリングリストを使用して行い、259の回答を得た。アンケートは職種別に質問項目を設定し、自由記載欄も多く設置した。現在、回答結果について詳細を検討中である。法医学に従事する人々の率直な意見が抽出され、今後の法医学が取り組むべき課題も浮き彫りになったと考える。今後、詳細な分析を実施する予定である。

A. 研究目的

法医学の任務である死因究明には、円滑で効率的な法医実務の遂行が不可欠である。解剖は医師だけで行うものではなく、臨床検査技師や薬剤師など他領域の専門家の協力が不可欠である。法医学領域では多職種連携が非常に重要なキーワードである。

本研究では、法医学に従事する教職員の働き方・抱える課題等の調査を行うことを目的としてアンケートを実施した。アンケート結果をまとめ、今後の課題解決の施策についての基礎資料とする。

B. 研究方法

実態調査のため全国80大学医学部法医学講座に対して、法医学会のメーリングリストで周知し、Formsに回答するアンケート調査を実施した。

【対象】

法医学講座に所属する教職員・大学院生（有期雇用職員含む）

【調査期間】

2025年1月20日（月）～2月28日（金）

C. 研究結果

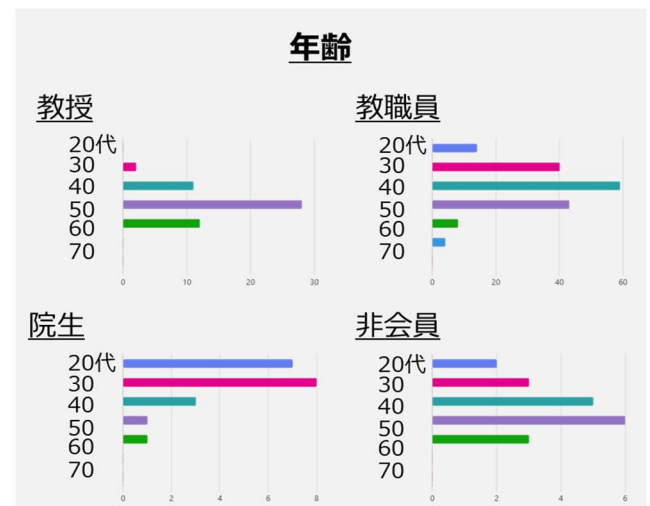
回答数：259

職種別：教授53、教職員167、
大学院生20、その他19

性別：男140、女118、非回答1

所属機関：国公立150、私立99、
その他10

年代別：20代：23、30代：53、
40代：78、50代：77、
60代：24、70代以上：4

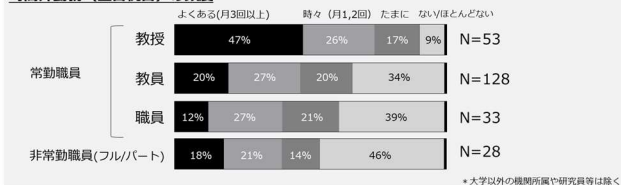


質問項目は多岐にわたり、基本項目、働き方について、現状と課題、困っていることや悩んでいることなどについて職種別に回答を集めた。

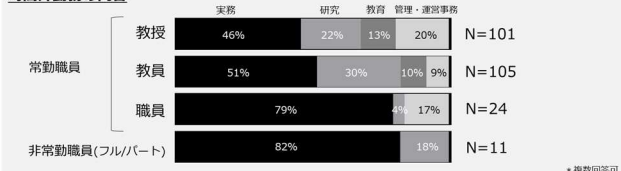
以下に、主な回答の集計結果の概要を記載する。

・働き方の現状について

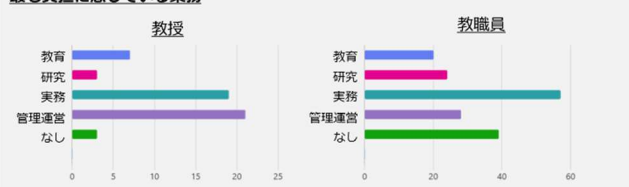
時間外勤務（土日祝日）の頻度



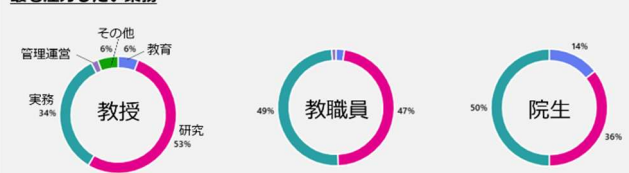
時間外勤務の内容



最も負担に感じている業務



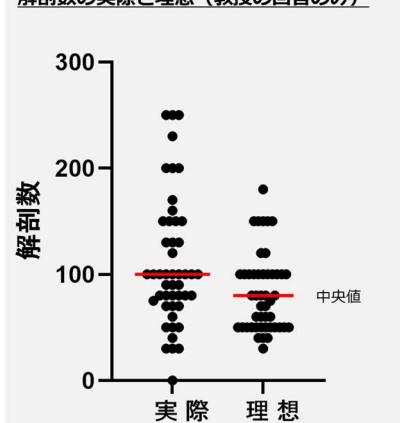
最も注力したい業務



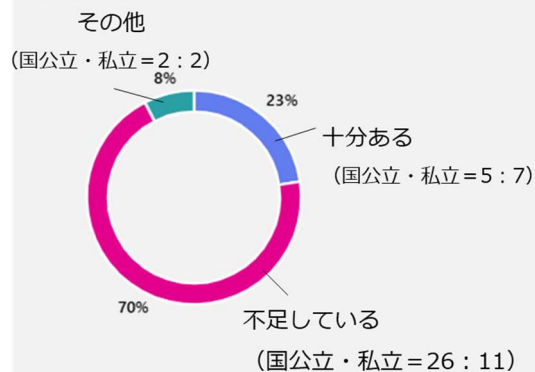
法医学の仕事にやりがいを感じていますか？



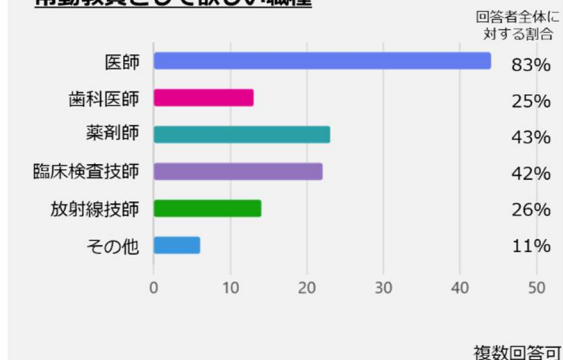
解剖数の実際と理想（教授の回答のみ）



常勤教員のポスト数

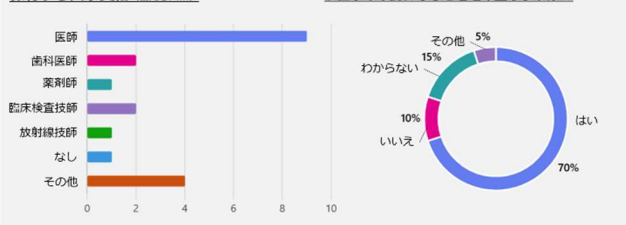


常勤教員として欲しい職種

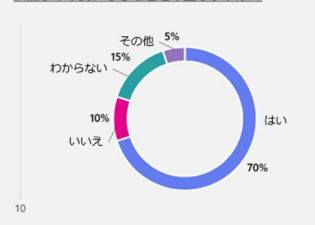


・大学院生への質問

保有する国家資格（主たる資格）



法医学の常勤になることを希望しますか？



D. 考察

アンケート項目は多岐にわたり、想定される回答から、想定外のものまであり、今後の法医学を考える上で大変貴重な資料となった。

最も印象的な結果は、職種に関わらず法医学にやりがいを感じている教職員が3/4以上にも及んだことである。法医実務の需要増大に比例して業務負担は増大しているにもかかわらず、このような結果が得られたことは、法医学に明るい未来があると期待できるように思われる。

まだ簡単な集計をしただけの状態であるが、今後、各項目について詳細な分析を行う。

E. 結論

法医学会に従事する教職員や職員に対してアンケートを行った。回答結果は示唆に富んでおり、今後、課題を抽出するとともに詳細な解析を行う予定である。

F. 健康危険情報

該当なし。

G. 研究発表

1. 論文発表

該当なし。

2. 学会発表

日本法医学会全国学術集会 シンポジウム 2
025. 6. 12 (久留米)

3. 関連した実務活動

該当なし。

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし